**【樹木の部屋】**

## エニシダ（マメ科エニシダ属　Cytisus scoparius）

和名：エニシダ(雀枝・金雀児)　　別名：蝶形花(チョウケイカ)

英名：Scotch broom

マメ目　常緑低木　原産地：ヨーロッパ、北アフリカ、カナリア諸島

花言葉　清潔、きれい好き、恋の苦しみ、温もり、上品 他

花の色：　黄赤、白、ピンク、オレンジなど

← 写真-１　エニシダ
撮影日：2014 年 06 月 22 日
撮影場所：タルキートナ
(アラスカ)にて
撮影者：M　さん

→ 写真-２　エニシダの小枝
撮影日：2014 年 06 月 22 日
撮影場所：タルキートナ
(アラスカ)にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　エニシダの花
撮影日：2014 年 04 月 14 日
撮影場所：不退寺(奈良市)にて
撮影者：M　さん

アラスカで宿泊した、タルキートナ散策中に見かけました。タルキートナはデナリ山(マッキンリー山)登山のベース基地として、植村氏が利用していた街で、常宿のある街。今でも、生存中に使用していた部屋が、そのまま残されていました。

一般にエニシダというと常緑性の種類で、学名がCytisus scoparius で表記される種をさします。耐寒性が高く、枝分かれしてたくさんの枝を茂らせます。学名の「scoparius(スコパリウス)」はギリシャ語でホウキ状のという意味で、古くから枝がホウキの材料として使われてきたことに由来しているそうです。開花期は5月～6月。

ヨーロッパの魔女がまたがって空を飛ぶホウキも、エニシダで作られていたと考えられているそうです。

管理ですが・・。放任でもよく枝を出して花を付けるので、若木での剪定は不要です。年数を経て枝数が多くなった株は、混み合っている部分の枝を付け根、もしくは枝分かれしている箇所から切り取り全体をすっきりとさせる「間引き剪定」を行います。

剪定の時期は、花の咲いた直後が最適です。7 月下旬にはすでに枝の中で翌年咲く花芽の準備が進行しており、それ以降の剪定は花芽ごと枝を切り落とすことになります。

また、3月頃に長く伸びすぎた枝や枯れた枝を枝の付け根から切り取ります。古い枝を切ることで、新しい枝や若い枝の成長を促すことができます。幹の途中から不定芽と呼ばれる弱々しい枝が出ることがありますが、見つけ次第付け根から取り除くと良い。

＜ちょっと一言＞

＊エニシダの種類には

・ヒメエニシダ（Cytisus x spachianus）

鉢植えとして広く利用されている種類で、「エニシダ」という名称で流通していることから、学名がCytisus scoparius のエニシダと混同されることもしばしばだそうです。草丈が低く、上に伸ばした茎の先に、黄色い花をたくさん付けます。

・ホホベニエニシダ（C. scoparius ‘andreanus’）

エニシダの園芸品種で、黄色い花びらの中心が赤く色づくことが特徴。樹高は2～3m に生長し、花を下に垂れ下げて咲かせます。

・シロバナエニシダ（Cytisus multiflorus）

落葉性でエニシダ属では比較的樹高が高く3m ほどになる。純白の花と濃い緑の枝とのコントラストが美しく、枝が平たく帯化(たいか)したものが生け花の花材として、セッカエニシダの名で流通し人気があるそうです。

＊不退寺（ふたいじ）

奈良市法蓮町にある真言律宗の寺院。本尊は聖観世音菩薩（業平観音とも呼ばれる）。山号は金龍山。寺号は詳しくは不退転法輪寺。仁明天皇の勅願を受け、平城天皇萱御所跡に在原業平が開基したと伝えられています。その由緒から「業平寺」とも呼ばれています。平城天皇の第一皇子阿保親王の菩提所でもある。